



## 『本当に良かったです!』

中医薬膳師コース11期生 高橋いずみ

今回、5月26水〜30日迄、北京薬膳研修旅行に15名で行きました!

今回の主な目的は、翌日27日の北京中医薬大学での日中両国薬膳シンポジウムと国際薬膳師合格者証書授与式の参加でしたが、素晴らしい教授の方々や劉先生に見守られながら合格証書を頂く事が出来、本当に良かったです! 昨年、2009年4月〜今年2月末迄、本草薬膳学院で初めて1年間、薬膳の勉強を受験し、頂いた証書の重みにとっても責任を感じ、今後、証書に合う様、実力をつけて行かなければ行けないとつくづく思いました。又、大学内の博物館や美術館見学も劉先生の通訳を交えながらお話を聞く事が出来、この様な素晴らしい教授人の下で、薬膳・中医師の勉強が大学で出来る中国学生に環境に感動しました!

それから今回のもう一つの旅行目的である大学の同仁堂や中国医学科学院薬物研究所での生薬中薬の買い物も出来て本当に良かったです!

3〜4日目は、世界文化遺産である万里の長城・明十三陵・故宮博物館・天安門登城・頤和園などの観光をしながら中国の広大な国土の広さやスケールの大きさ・国民の逞しさに驚きと感動をおぼえました。

本草薬膳学院ならではの3日間の贅沢三昧の昼食&夕食には圧倒され、参加者全員が満足! 大学薬膳私房菜でのドクダミの茎や薄荷の葉など日本人には斬新な料理でした! 大劇楼飯荘での京劇&北京ダック料理も素晴らしいかつたし、中国医学科学院薬物研究所内の薬膳料理・官符菜・神農莊園のスケールの大きな温室レストランには感動させられました!

本草薬膳学院並びに現地の先生方に心より感謝申し上げます。たくさんの方々の協力の下、素晴らしい研修旅行となり有難うございました!

是非、来年度も皆様、新しい方々も国際薬膳師資格を得て、劉先生と一度は北京薬膳研修旅行に参加される事をお勧めします!



## 『2010年北京薬膳研修旅行に参加して』

中医薬膳師通信教育コース 鈴木 理恵

おかげさまで国際薬膳師資格試験に合格することができ、このたび(5月26日〜30日)の北京薬膳研修旅行に参加させていただきました。

通信教育コースで共に励まし合いながら卒業し、国際薬膳師の試験を乗り越えた幾人かの友人は都合が合わず参加できないということだったので、「私がみんなの代表で合格証書をいただけてくる!」などと言いつつ、初めての北京訪問と本場の薬膳料理が食べられることを楽しみに申込みをしました。ひとりでの参加でしたので、最初は少々緊張気味で臨みましたが、いざ行ってみると皆さん気さくで親切な方ばかりで不安は一気になりました。

今回のメインイベントは27日の午前中に執り行われた中日薬膳学術シンポジウム並びに国際薬膳師資格証書授与式への出席でした。北京中医薬大学の立派な会場で薬膳の第一人者である諸先生方の講演を拝聴していると何だか自分も薬膳界の一員になれた気がして、この雰囲気の中で合格証書をいただいた時は感激しましたが、それと同時に今はスタートラインに立っただけでこれからが勉強なんだとも感じさせられました。午後は大学内にある中医薬博物館の見学で、約8000種の中薬の標本や中医学の歴史資料等、通常では見ることでないものを見せていただきました。

そして、もうひとつのメインイベント(と私が勝手に決めていたのですが)はお食事で、これは毎回、超豪華でした。本格的な薬膳料理(北京中医薬大学の学食、中国医学科学院薬用植物研究所内レストラン)をはじめ、京劇を観ながら北京ダックをいただいたり、国賓の料理を作る料理長の宮廷料理も食べることができました。また老北京料理店や北京最大の園林レストランにも行きました。紙面の都合上詳しく紹介できないのが残念ですが、印象に残っているものを1つ挙げるとしたら、宮廷料理で食べた「ラクダの足」です。肉ではなくコラーゲンのような食感で味にクセはありませんでした。料理はどこの店でも平均して20種類以上出ます。これが昼食・夕食と3日間続いたため、さすがに途中で苦しい時もありましたが何とか復活しました。(贅沢な話です。)劉先生によれば、毎回病人がでるそうですが今回はひとりでもなくてよかったとのことでした。私たちは頑丈な消化器官の持ち主の集団だったようです。(参加者の皆さま、失礼しました。)それにしても普通では食べられないような素晴らしい食事をいただけたのも国際飲食養生研究会会長である張文彦先生のご尽力のおかげです。張先生がすべての食事をご手配くださったそうです。またお忙しい中、毎回同席し歓迎してくださいました。張先生には深く感謝申し上げます。その他、世界文化遺産の観光もし、北京同仁堂薬局で凄まじい勢いで買い物をしたり、ここには書ききれないくらい密度の濃い5日間でした。



この研修旅行では多くのことを体験することができましたが、これらは私の大切な財産となり、これから薬膳の仕事をしていくうえで必ず役立つものと思います。

最後になりましたが、ご同行いただいた劉先生をはじめ驚見先生、海老原先生、河本先生には大変お世話になり、本当にありがとうございました。そして色々ご手配くださった学院の先生方にもお礼申し上げます。また気持ちを新たに精進してまいりますので今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。